

(10) 九州



九州地域では、景気は緩やかに悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

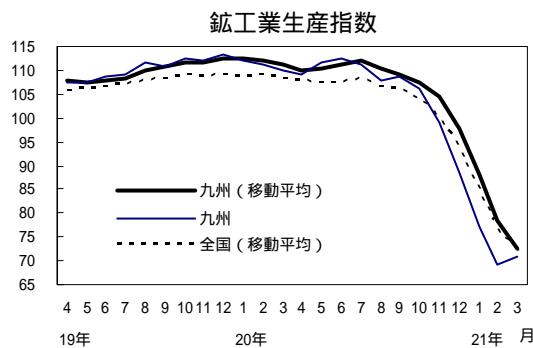
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年2月)	今回(平成21年5月)	
景況判断	急速に悪化	緩やかに悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	下げ止まりつつある	
住宅建設	増加	大幅に減少	
雇用情勢	急速に悪化しつつある	急速に悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりつつある。

電子部品・デバイスは、モス型計数回路(ロジック)やシリコンウエハを中心に大幅に減少した後、在庫調整が進んだこと等により3月は上昇した。輸送機械は、船舶がフル操業を続ける一方で、自動車が落ち込んだことから、全体では大幅に減少した後、自動車が下げ止まりつつあることから、3月は全体としてやや上昇した。食料品・たばこは、プロイラー加工品や水産練製品を中心に、やや上昇している。一般機械は、半導体製造装置や反応用機器を中心に、大幅に減少している。化学は、エポキシ樹脂原料等を中心に大幅に減少した後、在庫調整が進んだこと等により、3月は輸出向けを中心に大幅に上昇した。



	付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)			
		生産		出荷	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	15.6	11.4	49.6	46.1	20.3
輸送機械	15.4	18.1	33.2	33.5	7.5
食料品・たばこ	10.6	2.8	5.7	6.6	7.0
一般機械	10.6	17.0	25.7	25.6	27.6
化学	8.2	9.2	18.3	13.6	9.2
鉱工業	100.0	10.3	26.0	24.3	5.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

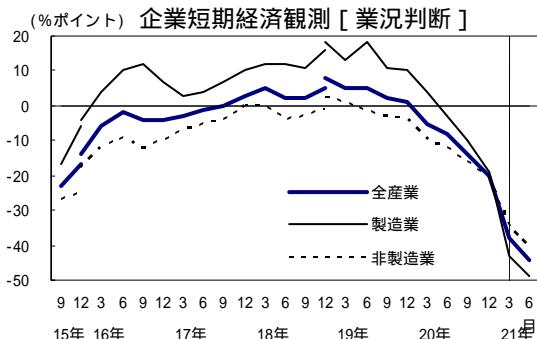
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 17年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

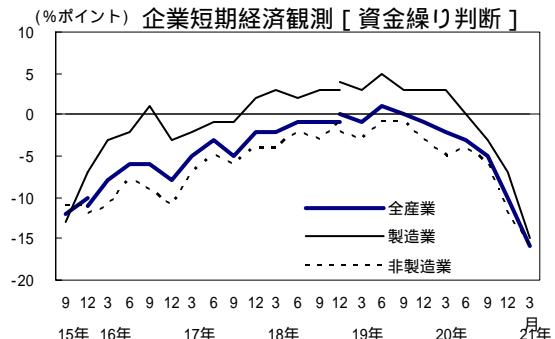
2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

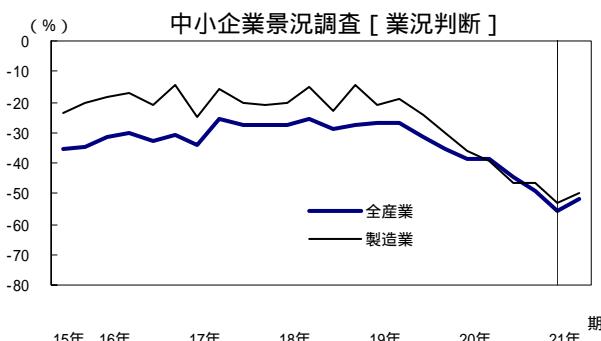
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。21年期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD.I.

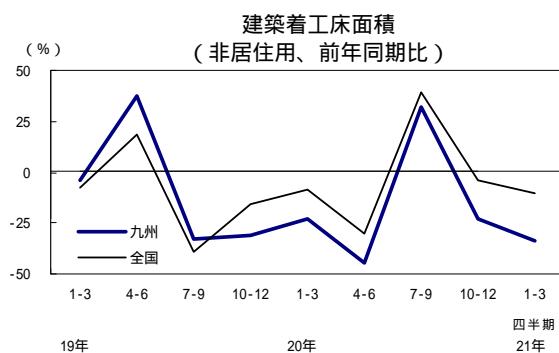
景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「製造業、非製造業共に需要が回復せず厳しい状況にあるが、原材料価格や為替が落ち着いており収益環境の悪化は落ち着いている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]		
	(前年度比、 %)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全 産 業	5.1 (-1.2)	10.3
製 造 業	16.6 (-1.2)	23.0
非 製 造 業	4.9 (-1.3)	1.6

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

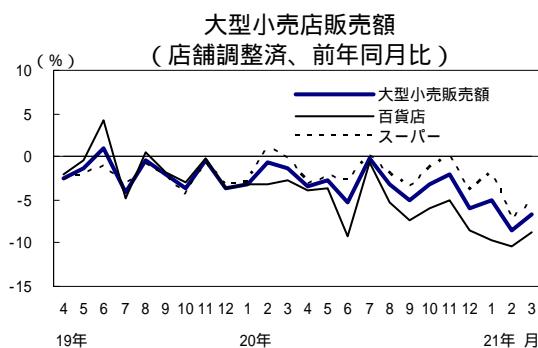
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、衣料品や高額商品が引き続き不振であったほか、降雪による入店数減少が影響し、前年を下回った。2月は、前年がうるう年であったことによる営業日減少の影響のほか、衣料品や高額商品が引き続き不振であったことから、前年を下回った。3月は、消費者の生活防衛意識が一層強まる中、前年に比べ土曜日が1日少なかったことに加え、天候要因により春物衣料品が低調であったことや高額商品の引き続く不振から、前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の4月の売上高は前年同月比で9.3%減となっている。

スーパーは、飲食料品が比較的堅調に推移したほか、台所用品に動きがみられたものの、衣料品の動きが鈍く、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「3か月前に比べると若干上向きであるが、エコポイント制度による買い控えがあり、現状は変わらない(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

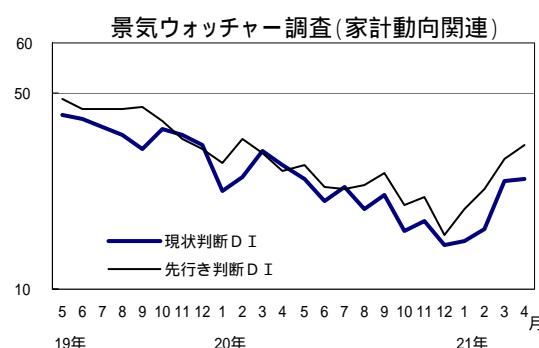
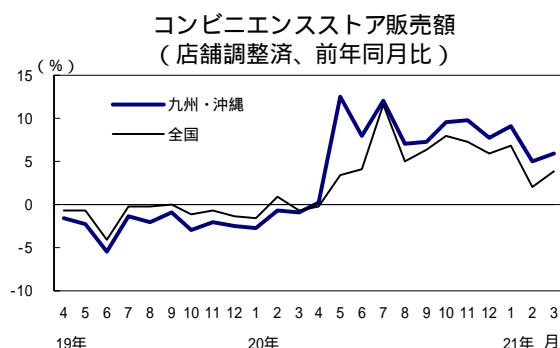


	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	3.8	2.6	4.0	6.6
百貨店	5.5	4.0	6.7	9.6
スーパー	2.7	1.7	1.9	4.6
コンビニ	6.9	8.8	9.0	6.7
景気ウォッチャー	31.9	28.8	21.5	24.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

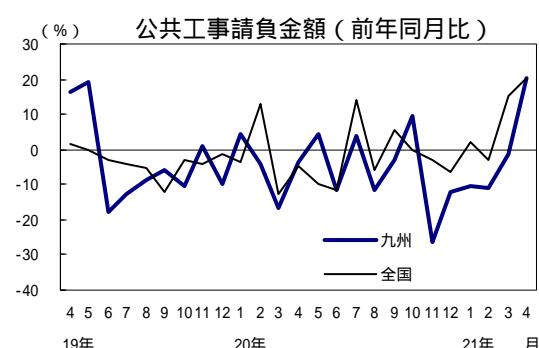
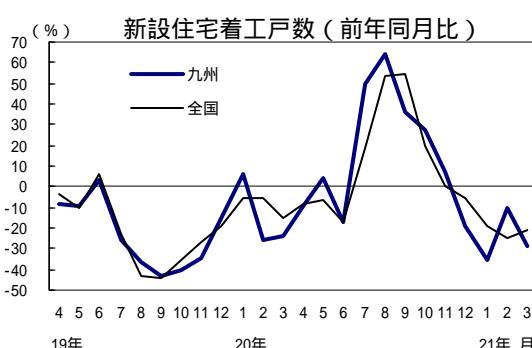
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家を中心に、持家、分譲ともに減少し、全体で大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計でみると前年度を下回っている。

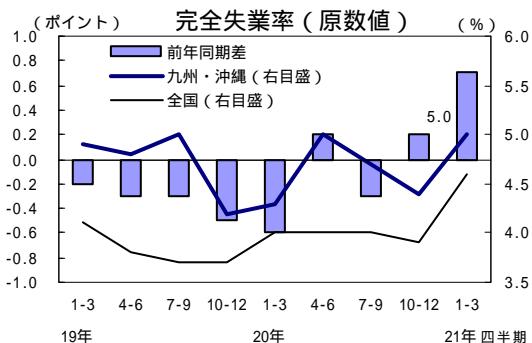
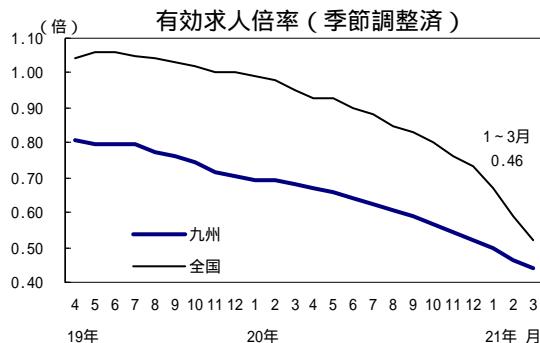


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

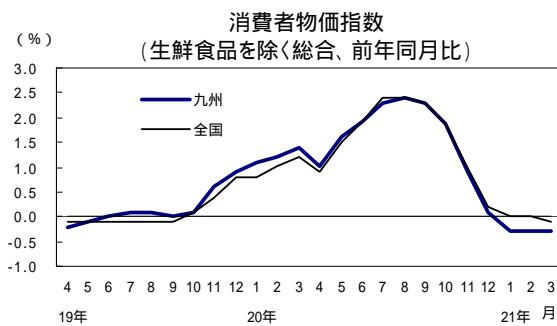
「4月は人材派遣の需要期であるが、長期・短期・単発などの引き合いが例年の4分の1である(人材派遣会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数 (前年比)	352 8.0	357 11.2	364 17.4	266 15.0	80 22.3
負債総額 (前年比)	1,712 69.5	1,575 76.6	1,916 25.8	1,108 39.4	333 33.7



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 環境対応車の優遇税制や追加経済対策により、自動車購入に客の関心が高まっている。新型のハイブリッド車の予約受注もあり、客の購入意欲が高まっている(乗用車販売店)

<先行き>

- 販売価格に底値感が出たことにより、受注量に回復の兆しがあるが、建設需要回復のけん引役である新規設備投資に起因する需要はほとんどない。設備投資物件に付随する周辺インフラの需要も減少し、景気対策の効果が出るまで需要の低迷は続く(鉄鋼業)

